府立阿武野高等学校
校長　　田中　忠一

令和８年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

スモールステップによる達成感を大切にした学びを通して、生徒一人ひとりの主体性と挑戦意欲を育てる。生徒が自ら学び、考え、行動する教育活動を進めることで、「生きる力」及び「進路を切り拓く力」の育成をめざす。あわせて、教育活動全体を通して規範意識や人権意識を高め、地域・家庭と連携しながら、すべての生徒にとって安全で安心できる学校づくりを進め、社会から信頼される学校をめざす。

１　生徒の学習実態を踏まえた段階的な学習構成と授業改善を進めるとともに、生徒が自ら学びに参画し、思考と行動を通して資質・能力を高める学習活動を推進する。あわせて、自立支援コース並びに専門コース等において特色ある教育活動を展開し、生徒一人ひとりの特性や可能性を伸ばす。
２　系統的なキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりに応じた指導・支援を行うことで、主体的に進路を切り拓こうとする意欲と行動力を育成する。
３　教育活動全体を通して規範意識及び人権意識の向上を図るとともに、生徒理解に基づく指導・支援を進め、地域・家庭と連携しながら、すべての生徒が安心して学校生活を送ることのできる環境を整える。

２　中期的目標

１　確かな学力の育成と授業改善

（１）スモールステップによる達成感を重視した、生徒参画型の授業づくりを推進し、主体的に学ぶ生徒を育成する。
ア　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生徒が自ら考え、表現し、関わり合う学習活動を重視した授業実践を進め、基礎学力の定着と円滑な人間関係の形成を図る。
イ　ICT 機器を効果的に活用し、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業を展開するとともに、生徒一人ひとりの理解度に応じた個別最適な学びと協働的な学びを推進する。
ウ　スモールステップによる達成感が得られる評価の在り方を研究し、生徒が自己の成長を実感できるとともに、学びに向かう意欲と自己肯定感が高まる授業づくりを進める。
エ　「阿武野プロジェクト」を核として、教員相互の授業見学や授業アンケート、他校・中学校の授業見学等を効果的に活用し、組織的な授業改善を通して教員の授業力向上を図る。
オ　国際交流事業や英語検定等を活用し、他者理解と自己表現の力を育む国際理解教育を推進する。
※　授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(R５:85%、R６:84.6%、R７:86%)を上昇させ、令和 10 年度には 90%以上にする。
※　教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合（R５:35.8%、R６:38.7%、R７:39.8%）を令和 10 年度には 40%以上にする。
※　「生徒１人１台端末の効果的な活用」(R５:93.1%、R６:94.8%、R７:95.4%)を増加させ、令和 10 年度には 96%以上にする。

（２）主体的な学びと挑戦を支える学習環境及び授業規律の確立を図る。
ア　学習環境の整備、授業準備及び基本的な授業規律の指導を徹底し、生徒が安心して学びに参画し、集中して学習に取り組むことができる環境づくりを進める。

２　進路意識の醸成とコース制の充実

（１）系統的なキャリア教育の推進による進路意識の醸成
進路指導部と学年が連携し、３年間を見通した系統的なキャリア教育を推進することにより、生徒一人ひとりが自己理解を深め、主体的に進路を選択し、実現しようとする意欲と行動力を育成する。
ア　総合的な探究の時間（ライフ・プランニング＝LP）及び LHR（ロングホームルーム）等を活用し、生徒が将来を具体的に考え、自らの生き方や進路を段階的に構想できるよう、系統的・継続的なキャリア教育の充実を図る。
※　進路決定率 99%以上の維持をめざす。
※　学校紹介による就職内定率 100%の維持をめざす。

（２）自立支援コース並びに専門コース等における特色ある教育活動の充実
「自立支援コース」「スポーツ専門コース」「福祉・保育専門コース」をはじめとする各教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観及び基礎的・汎用的能力の育成を図る。
ア　各コースにおいて、生徒の実態や保護者のニーズを踏まえた教育内容の充実を図り、スモールステップによる達成感を積み重ねながら、主体的な進路選択と進路実現につなげる。
イ　コースの特色を生かした多様な教育活動を展開するとともに、地域との交流・連携を一層深め、社会とつながる学びを通して実践的な力を育成する。

３　安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成

（１）すべての教育活動を通じて安全・安心に学べる環境づくりを行い、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。
ア　規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立を図るため、登校時の校門指導を継続・充実させ、教職員の共通理解のもと一貫した生徒指導を行う。
イ　LP、LHR において、様々な人権課題や集団づくり、アサーション・トレーニング、デジタル・シティズンシップ等の学習を計画的に実施し、人権尊重に貫かれた教育を徹底するとともに、いじめや差別の未然防止及び早期発見・早期対応に努める。
ウ　インクルーシブ教育の理念に基づいた「ともに学び、ともに育つ」教育を推進するとともに、地域の学校や諸団体との交流・連携を通して社会貢献を体験し、社会の一員としての自信や誇りを育み、「自尊感情」の向上を図る。
エ　大規模災害への備えと緊急事態発生時に迅速かつ適切に対応できる校内体制のさらなる強化を図るとともに、防災教育、交通安全教育を計画的・継続的に実施する。
※　遅刻について、前年度比５%の減少を目標とする。

（２）生徒の自主的・主体的な活動を支援し自尊感情を育成するとともに、自らを律し、他者を思いやる心を育てる。その際、「褒めて育てる」「スモールステップで育てる」指導を意識して取り組む。
ア　学校行事や生徒会活動の一層の活性化を図り、生徒が達成感や所属感を得られる機会を充実させる。
イ　部活動の活性化を図り、仲間と協働する経験を通して責任感や自己有用感を高める。
ウ　様々な生活背景や課題を抱える生徒を学校全体で受け止め、関係機関とも連携しながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切かつ継続的な支援の充実を図る。
※部活動加入率(R５:49.5%、R６:53.9%、R７:51.3%)を上昇させ、令和 10 年度には 55%以上にする。

４　地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上

（１）阿武野高校の魅力を積極的に発信し、地域の信頼感を高める。
ア　中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的・組織的に実施し、本校の教育内容や特色への理解を深め、地域からの信頼感を高める。
イ　学校教育活動全般について、ホームページや各種広報媒体等を活用した適切かつ継続的な情報発信に努め、保護者・地域との信頼関係を一層深める。

（２）教職員が共通理解のもと、組織的・継続的に学校力の向上に取り組む。
ア　学校運営における課題を共有し、分掌・学年・委員会等が連携して改善に取り組む体制を強化する。
イ　教育活動の成果と課題を検証し、次年度以降の改善につなげる学校運営を推進する。

５　労働安全衛生管理体制の充実

（１）教職員の業務負担の軽減と健康の確保を大切にしながら、大阪府立学校の実施計画に基づき、働き方改革を進める。
ア　校務の内容や方法、役割分担の見直しを行い、改善可能なものから着実に実行するとともに、校内組織の適正化を進める。
イ　グループウェアや学習支援クラウドサービス等を活用し、校内連絡や周知事項の徹底、意見交換を円滑に行うことで、業務時間の縮減と業務の質の向上を図る。
ウ　「部活動に関する方針」を遵守し、計画的な休養日の確保を徹底するとともに、無理のない指導・運営が行える体制を整える。
エ　時間外在校等時間の縮減や年次有給休暇の取得促進等に組織的に取り組み、教職員の心身の健康保持を図る。
オ　生徒のみならず、教職員にとっても安全・安心な学校づくりを進め、教職員間の相互理解と信頼関係の醸成を図る。
「教職員間の相互理解、信頼関係」（R５：100%、R６：93.3%、R７：86.4%）について、令和 10 年度には 95%以上を目標とする。

府立阿武野高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］	学校運営協議会からの意見

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R７年度値]	自己評価
１　確かな学力の育成と授業改善	（１）　スモールステップによる達成感を重視した、生徒参画型の授業づくりを推進し、主体的に学ぶ生徒を育成する。 ア　主体的・対話的で深い学びの実現 イ ICT 機器の効果的な活用・定着 ウ　学習意欲を高める評価方法の工夫	（１） アイウ ・生徒の実態・学習状況に基づいて、学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりを行い、自尊感情が高まり、「わかった」「できた」「やってみよう」と次へと繋がる授業を行う。 (授業を通じた生徒指導、ポジティブな行動支援、楽しくわかる授業、一人ひとりが活躍できる・互いの意見を認め合う場を設定した授業) ・１人１台端末や学習支援クラウドサービスを効果的に活用して、自ら学ぶ力の育成、家庭学習の習慣化、基礎学力の定着・向上に取り組む。 (授業のユニバーサルデザイン、アクティブ・ラーニング（AL)、個別最適な学びと協働的な学び)	（１） アイウ ・授業アンケート「興味関心、知識技能」に係る満足度を 85%以上維持する。[86.3%] ・教育産業における到達度テスト結果に連動した課題への取組みについて、生徒の取組率を 95%以上とする。[97.5%] ・学校教育自己診断[生徒]「生徒１人１台端末の効果的な活用」を 95%以上維持する。[95.4%]	
	エ　校内研修の充実	エ・「阿武野プロジェクト」（あぶプロ）が中心となり､授業規律、学習形態や学習内容、評価方法の工夫等をテーマにした校内研修を実施し、課題と成果を全校で共有する。	エ・校内研修を３回以上実施［３回］	
	オ　国際交流等による異文化理解、英語力の向上	オ・国際交流事業や英検受検等を通じて、英語力と多様性尊重の態度を育む。	オ・台湾 永春高校とのオンライン交流を１回以上実施 ［台湾 永春高校とのオンライン交流１回実施］	
	（２）学習環境の整備と授業規律の確立 ア　授業に集中できる環境の整備	（２） ア・学習環境の整備、授業準備、授業規律の指導を各学年団で徹底し、授業に集中できる環境を整える。 ・担当分掌を中心に全教職員で日々の校内美化を推進。特に、行事前後や学校説明会などの清掃活動時には重点を置く。	（２） ア・学校教育自己診断[生徒]における「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定的評価を前年度[74.2%]より向上させる。 ・同「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価を 85%以上維持する。[85.2%]	
２　進路意識の醸成とコース制の充実	（１）　系統的なキャリア教育の推進による進路意識の醸成 ア　系統的・継続的なキャリア教育の充実	（１） ア・ライフプランニング(LP)、LHR が３学年間を見通した系統的・継続的なキャリア教育として充実するよう、進路指導部・各学年・人権教育担当分掌で協議・検討し、より良いキャリア教育プログラムに改善する。 ・進路指導部・教務部・各学年団が協力して、補習・講習等を実施し、生徒の主体的な進路選択を支援する。	（１） ア・学校教育自己診断[生徒]における「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価を 95%以上維持する。[96.4%] ・２年生の進路目標確定 100%を維持する。[100%] ・卒業時進路決定率 99%以上を維持する。[99%] ・学校紹介就職内定率 100%を維持する。 ・進路指導部３年アンケート「進路満足度」の肯定的評価の割合を 100%とする。[94%]	
	（２）自立支援コース、専門コース、選択科目等の教育内容の充実	（２） ア・専門コースや選択科目が生徒の進路に結びつくよう、教育内容の充実を図る。 イ・地域諸団体との交流・連携を推進し、進路意識の高揚を図る。	（２） ア・学校教育自己診断[生徒]「専門コースの授業に満足」の肯定的評価を前年度[89.4%]より向上させる。 イ・同「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[90.4%]より向上させる。	

府立阿武野高等学校

3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成	（１） すべての教育活働を通じた安全・安心に学べる環境づくり ア　規範意識の高揚と基本的な生活習慣の確立	（１） ア・全教職員が協力して登校時校門指導を行い、丁寧な遅刻、頭髪、制服の指導を行うとともに、挨拶ができる生徒を育てる。 ・生徒一人ひとりが「阿武野校生の代表」であるという自覚を持ち、責任ある行動、言葉遣いができるよう一貫した生徒指導を行う。 ・入学当初から中高連携を丁寧に実施し、一人ひとりを大切にするカウンセリングマインドを持った生徒指導を推進する。	（１） ア・年間延べ遅刻数を昨年度数の５％減少（2,519 人）させる。[2,652 人] ・学校教育自己診断[生徒]「指導の納得度」、[保護者]「生徒指導の方針に共感」の肯定的評価を前年度より向上させる。 [生徒 68.4%] [保護者 72.0%] ・同[教職員]「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価を前年度[93.2%]より向上させる。	
	イ　いじめや差別の未然防止	イ・「障がい理解学習」、「学年開き」「クラス開き」、情報モラル(SNS との関わり方)、ソーシャルスキルの獲得を含む学習を計画的に実施し、違いを認め合い多様性を尊重する人権教育と集団育成を実践する。 ・問題行動の未然防止に取り組み、社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。	イウ ・学校教育自己診断[生徒]「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価を 99%以上維持する。[99.8%] ・同「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価を前年度[84.1%]より向上させる。	
	ウ　社会貢献活動と地域交流の推進	ウ・社会貢献活動「あぶねっと」やクラブ等による地域交流、ボランティア活動等により、社会の一員としての自信や誇りと「自尊感情」を育てる。		
	エ　防災教育、交通安全教育の推進	エ・地域や関係機関と連携して、実践的な防災教育、交通安全教育を計画的に行う。 ・自転車運転ルールの順守、マナーの向上について、交通安全テスト等を活用し、定期的な注意喚起を行う。	エ・防災教育、交通安全教育の実施。［３回］ ・交通安全テストで全学年全員合格させる。[全学年全員合格]	
	（２）生徒の自主的活動の充実	（２）	（２）	
	ア　学校行事、生徒会活動の活性化	ア・学校行事や生徒会活動の活性化を図る。 生徒が主体的に活動する機会の創造や取り組みの工夫を行い、成就感・達成感を体感させるとともに自尊感情を育てる。	ア・学校教育自己診断[生徒]「学校行事満足度」の肯定的評価 90%以上維持する。[90.0%]	
	イ　部活動の活性化	イ・部活動の活性化を図る。 クラブ員集会、リーダー講習などによる連帯感の醸成。部活で頑張る生徒の存在感を高める。地域連携の維持、強化。	イ・部活動加入率を前年度[51.3%]より向上させる。 ・生徒会や部活動による地域交流回数 30 回以上を維持する。 [45 回]。	
	ウ　生徒支援体制の充実	ウ・教育相談委員会体制をさらに充実し、生徒支援力を高める。 ・ケース会議を通じて、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)、福祉・行政の関係機関との連携を推進し、一人ひとりの教育的ニーズに対応できるよう、よりよい支援体制を整備していく。 ・教育相談、キャリア教育、支援教育それぞれの分野の垣根を越えた包括的な支援体制づくりをめざして、「あぶりすのおうちカフェ」(居場所カフェ)、保健室、スマイル (教育相談室)、図書室などで多様な生徒の居場所を確保し、多面的な生徒支援を行う。	ウ・学校教育自己診断[生徒]「先生や保健室・相談室などで、相談することができる。」の肯定的評価を前年度[74.8%]より向上させる。	
4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上	（１）広報活動の強化 ア　計画的、組織的な広報活動	（１） ア・中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。	（１） ア・学校説明会等の計画的、組織的実施 20 回以上維持する。[25 回]	
	イ　継続的な情報発信	イ・学校ホームページや公開授業、SNS 等を通じて、保護者、中学校の先生方、地域の方々に本校生徒の学校生活や授業の様子などの教育活動を積極的に発信する。 ・文書、保護者メール、ホームページ等を活用し保護者との連絡をより密接に行い、学校との信頼関係を向上させる。	イ・学校教育自己診断[保護者]「教育情報提供満足度」の肯定的評価を前年度[79.9%]より向上させる。	
	（２）組織的、継続的な学校力の向上 ア、イ 学校運営における諸課題の改善	（２） ア、イ ・日常的な 0JT の推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。	（２） ア、イ ・学校教育自己診断[教職員]「経験年数の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価 85%以上にする。[84.1%]	

府立阿武野高等学校

5 労働安全衛生管理体制の充実	（1）大阪府立学校の実施計画に基づく働き方改革	（1） ア　校務の内容や方法、役割分担の見直しを行い、改善可能なものから着実に実行するとともに、校内組織の適正化を進める。 イ　グループウェアや学習支援クラウドサービス等を活用し、校内連絡や周知事項の徹底、意見交換を円滑に行うことで、業務時間の縮減と業務の質の向上を図る。 ウ　部活動に関する方針を遵守し、計画的な休養日の確保を徹底するとともに、無理のない指導・運営が行える体制を整える。 エ　時間外在校等時間の縮減や年次有給休暇の取得促進等に組織的に取り組み、教職員の心身の健康保持を図る。 オ　生徒のみならず、教職員にとっても安全・安心な学校づくりを進め、教職員間の相互理解と信頼関係の醸成を図る。	（1） ア、イ、ウ、エ ・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする。［１人］ ・教職員一人あたりの平均時間外在校時間 30h 以内にする。［33.3h(12 月末現在)］ ・ストレスチェック結果の総合健康リスクが事業場全体より下位を維持する。［79(教育庁全体 95)］ オ・学校教育自己診断［教職員］「教職員の相互理解、信頼関係」を 90%以上にする。［86.4%］	